

毎号、研究員をクローズアップして、業務内容や仕事に対する思いをご紹介します。



Vol. 10

表面技術グループ
副主任研究員

うらさき かおり 浦崎 香織里

大学院修士課程修了後、中小企業での勤務経験を経て博士課程へ。大学院時代の専門分野はバイオマスエネルギー。趣味は着物を着ての街歩きなど多数。



「化学英語の基礎—和英・英和用例辞典」
野崎 亨／培風館 ISBN 4-563-04584-5
研究論文や講演原稿の作成には欠かせない一冊です。

自分の“強み”を活かして新たなチャレンジを続け、よりよいサービスを提供していく

中小企業での勤務経験を技術支援に活かす

大学院時代に都産技研を見学し、丁寧な対応やアットホームな雰囲気が印象的でした。埼玉県の中小企業で研究開発に従事していたことがあり、その頃の経験も活かせると考え、博士課程修了後に都産技研に入りました。

現在、素材の表面処理に関する技術支援を担当しています。一言で表面処理といっても、めっきや塗装など幅広く、お客さまから寄せられる相談は製品開発から性能評価、事故解析など多岐に渡ります。都産技研には、各分野のエキスパートが揃っているので、分からないことがあっても、すぐに他の研究員が力になってくれます。最初は、知識不足ゆえにお客さまの真意をすぐに読み解けなかったことがありましたが、経験を重ねるとともに、中小企業の製品開発や製造現場を実際に知っていることから、お客さまが本当に求めている支援を行えるようになり、今では私の強みになりました。

お客さまから、「丁寧に対応してもらい感謝しています」という言葉をいただくことで、やりがいを実感しています。

世界を視野に新技術の開発・普及に挑む

研究面では、めっき技術の開発と高機能化に取り組んでいます。都産技研が開発した環境対応型ニッケルめっきは、排水規制の対象となるホウ酸の代わりにクエン酸を用いる画期的なもので、環境負荷を低減するうえに耐食性などの機能面でも優れています。国内企業への技術移転に取り組むとともに、海外で開催される学会にも積極的に参加し、世界中でこの技術が利用されることを目指しています。めっきは、成熟産業といわれており、国内から東南アジアへ製造の場を移しています。しかし、日本ではできない技術を確立・普及することで、国内産業の活性化に貢献していきたいと考えています。

職場も家庭も大切に、よりよいサービスを提供していきたい

職員同士の「情報共有」にも力を入れています。個人で完結してしまいがちだった研究や支援の情報を、ノウハウとして共有するようにしています。

これからも自分にできることには、どんどんトライし、多くの経験を積み、技術支

援に取り組んでいきたいです。なんでも完璧を目指しすぎると良い仕事も続かなくなります。仕事と同様に家庭を大切に、ワークライフバランスを保つように心がけ、都産技研を訪れるお客さまに対し、よりよいサービスを提供していきたいです。



「デジタルマイクロスコープ」で表面や断面の状態をチェック



休日は、着物で散策を楽しんでいます

お問い合わせ 表面技術グループ<本部> TEL 03-5530-2630